



子どもっぽくなった母

● わたしの母は、父と別居するようになってから少しずつ変わってきました。考え方や行動、発言内容などが子供っぽくなったようです。部屋はすぐ汚してしまうし、食べ物もたくさん買ってきては使わずに捨ててしまいます。その度にわたしはイライラしてしまい、時には大喧嘩になります。更年期障害だから、と思うようにしていますが、母のことを考えると胃痛がするのです。わたしが優しい人間だったらこれくらいのことです。怒ったりしないんだらうなと思ひ自己嫌悪。どうしたら母とうまくやっていけるでしょうか？
(匿名希望・20代女性)

今週のお助け人

きえ りゅうしょう
帰依 龍照さん

コザ真宗寺(旧コザ本願寺)住職。琉球大学仏教研究会会長。趣味は、見た目に合わせた大型バイクと、見た目に合わない熱帯魚飼育。自分の存在そのものが、人々の癒やしであれば…と日々願う。座右の言は「恩は石に刻み 怒みは水に流せ」。

ご相談の中にある「お父さんとの別居」という要因は非常に気になります。お母さんの変化もここから始まっているのでしょうか。

「依存対象喪失」という言葉を聞いたことがあります。頼りにしている人・物を失うことにより、心に空白感を覚え、自分自身を見失う状態だと思ひます。おもちやを無くした子どもが泣き叫ぶように、大切なものを

失ったり、環境の大きな変化で自分を見失うことって誰しもあるんですよ。

あなたから見て、お父さんはどんなタイプの男性ですか？娘の欲目(?)もあるでしょうが、あくまでも客観的に分析してみましよう。お父さんが「ワンマン」タイプで社会的・人間的に一定の評価を受けているとすれば、それはお母さんの内助の功、多くの犠牲の上に勝

ち得た部分もあるでしょう。家の中で「おくりい！」ばかり連発する”亭主閑白”は本当、世のお母さんいとはいい迷惑です。この別居は、言い換えるとお母さんがお父さんから解放されたと言えるかもしれませぬ。

解放を契機に

この”解放“という言葉は、プラス面ばかりではありません。ご相談にあるようなお母さんの発言や行動は、マイナス面の顕れであると考えられます。このお父さんからの解放によって、お母さんの第二の人生が始まったと考えれば、そう、せつかくの契機をマイナスにしてしまっ

てはもったいないですよ。 「わたしが優しい人間だったら、これくらいのことで怒ったりしないんだらうな」とあなたはおっしゃいますが、間違ってもこのような自己嫌悪にならないことです。なぜなら、ここに「依存対象喪失」の落とし穴があるからです。あなたがお父さんの代わりにならなければなどと考

え、万一あなたが限りなくお父さんに近づけたとしても、やっぱりお父さんはお父さん、あなたはあなた。それをあなた自身が見失ってはいけません。

わたしの経験から申し上げますと、お母さんには何か新しい趣味を見つけてあげてはいかがでしょうか。時間も忘れて没頭できることを探してみるので。ここで大切なのは、お母さん一人ではなく、あなたも付き合せてあげること。メリットはたくさんありますよ。まず共通の話題があるでしょうか？ 人間、話題も生きがいもないと、最後に生み出すのは人の悪口。楽しくないですよ。ここはうまく距離を置いて、同じ趣味を楽しめる同級生、友達になることを提案します。よい趣味のご縁に恵まれますよう、心から念じます。

このコーナーは年齢・性別・職業の異なるアドバイザーがあなたの心の悩みに答えます。相談したい事を編集部までお送りください(匿名可・秘密厳守)採用分には記念品を差し上げます。



公園の木製手すりに、彼方を見つめる猫の後ろ姿を発見。シャッター押そうとしたら振り向いた。双方「うわっ!!」と驚いたものの、「あら、お撮りになりますの!？」とばかりにまたたく間にキメ顔に。うーん…おそるべし、おぬし撮られ慣れておるな。豊見城市にて。(かまぼこ)